

OCCお茶の水聖書学院の ミッション



OCC 理事長
村上宣道



OBI 学院長
藤原導夫



OBI 副学院長
堀肇



教会音楽科主任
内藤真奈

キリスト教会の働きの二本柱は「宣教」と「教育」であるとされています。「宣教」は未信の方々に働きかけてキリストによる救いへと導くことです。「教育」とは救われた方々をキリストに向かう成熟へと養い整えることです。お茶の水クリスチャン・センター（OCC）は諸教会と協力しつつこの二つの働きに取り組み続け今日に至っています。

お茶の水聖書学院（OBI）は信徒の方を対象に後者の役割を担う組織として一九九一年にOCC内に創設されました。その中心的担い手は増田誉雄先生、本田弘慈先生、羽鳥明先生、世良田湧侍先生方（いずれも故人）でした。

しかし一九九〇年代後半に日本社会を襲ったバブル景気崩壊の影響を受け、OCCとOBIは分離し二〇〇一年からは互いに各自の歩みを辿ることとなりました。しかし不思議な神の導きにより二〇一四年には、古巣に帰るようにOBIはOCCへと再統合されたのです。その際に正式名称も「OCCお茶の水聖書学院」へと変更されました。その再統合によってOCCはこれまでの

「福音宣教」という柱に加え、「信徒教育」という、もう一本の柱を、改めて一層強化することとなったと言えます。

そのような経緯を辿ったOBIですが、そのミッションはこれまでと同じく、首都圏にある諸教会信徒の信仰育成に寄与するということにあります。具体的には聖書をより総合的に学ぶ「聖書科」と、教会音楽を各教会と学生のニーズに合わせて学ぶ「教会音楽科」の二科を設けてその働きに取り組んでいます。

OBIではこれまで多くの先生方が教えてくださいましたが、今年度は聖書科九名、教会音楽科四名の先生方です。聖書科教師はすべて牧師であり、牧師としての見識とハートをもってその働きに取り組んでおられます。教会音楽科教師も全員が自ら所属する教会の音楽奉仕者であり、教会における音楽を考慮した指導を常に心がけておられます。

このようなOBIから巣立った卒業生はすでに二〇七名に達し、それぞれが学んだことを自らの人生と教会において役立てながら歩んでおられます。OBIは基本的には信徒のための教育機関ですが、卒業後さらに学びを続け、牧師、伝道師となられた方々も二〇余名おられます。

最後にOBIならではの特徴をいくつかご紹介いたします。

JR御茶ノ水駅から徒歩約二分でアクセスが良い／超教派で広くパランスが取れている／所属教会牧師の推薦状により誰でも入学できる／一年中いつでも入学できる／入学試験が無い（正科生でも面接のみ）／各クラスでもテストが無い／卒業を目指さなくても聴講生、科目履修生として自由に好みのクラスを受講できる／正科生として卒業した後も生涯教育的にいつまでも学び続けることができる／奨学金制度が整いつつある。

このようにOBIは門戸を広げ、諸教会のニーズに応えようと常に努めています。OBIのモットーは「主と教会に仕える」ですが、皆さまのご理解とご協力をいただきながら、その目標達成へのより良い道筋をさらに探り求めていきたいと祈り願っております。